

アーツ・トワダまちづくり地区

(青森県十和田市)

- 計 画 期 間 平成 21 年度～平成 25 年度
- 面 積 151ha
- 交付対象事業費 792 百万円
- 市人口 65,852 人 (地区内人口 2,536 人)

ポイント

現代アートによる新たな魅力を活用した中心市街地の活性化

地区概要

十和田市現代美術館を拠点として、「現代アート」の魅力を中心市街地に展開し、多くの人々が交流し、賑わいの活動を行う環境づくりを進め、中心市街地の活性化を図る。

目 標

「アートの感動を共有する賑わいの街とわだ ～人々が集い、暮らし、活動する中心市街地を目指す～」をテーマに魅力的な市街地の形成、快適な空間・機能の集積を図る。

指 標

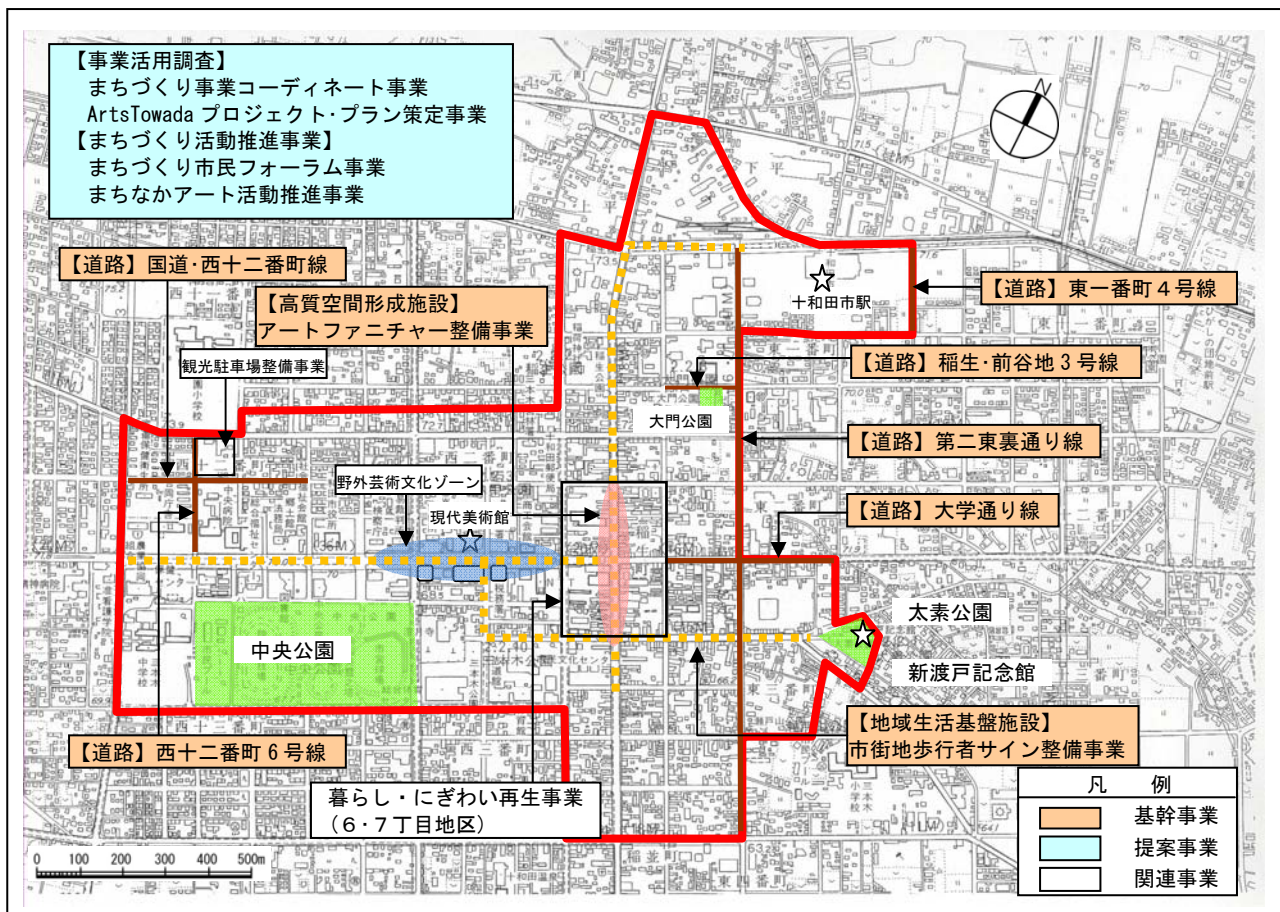
「現代アート」の魅力を中心市街地に展開し、多くの人々が交流し、賑わいの活動を行う環境づくりを進め、中心市街地の活性化を図るため、歩行者・自転車通行量等を指標とした。

歩行者・自転車通行量	1,786 人	H20	→	1,900 人	H25
空き店舗率	26.2%	H20	→	25.0%	H25
公共施設利用者数	475,505 人	H20	→	511,000 人	H25

事業内容

基幹事業(670 百万円)→ 道路(6 路線)、市街地歩行者サイン整備、アートファニチャー整備

提案事業(122 百万円)→ まちづくり事業コーディネート事業、Arts Towada プロジェクト・プラン策定事業、まちづくり市民フォーラム事業、まちなかアート活動推進事業



地区の現況と課題

- ・ 中心市街地において、空き店舗の増加、地区内の人口減少など活力が低下している。
- ・ 十和田市現代美術館を中心とした官庁街通り沿いに、現代アートをテーマとして、まち全体を美術館に見立てた野外芸術文化ゾーン構想が展開されており、新たな魅力が加えられている。
- ・ 中心市街地に集積した既存ストックの活用などを通じた安全・安心な市民生活を確保・充実させつつ、現代アートの魅力を中心市街地に展開し、多くの市民が感動や楽しさ、美しさを共有できるまちづくりが課題となっている。

提案事業の特徴

ArtsTowadaプロジェクトプラン策定事業

中心市街地活性化におけるアートの活用方法について、市民、行政、専門家の協働で、一定の方向性を定め、実施する整備事業等に活かしていく。

まちなかアート活動推進事業

アートを中心市街地へ広げていく仕掛けとして、現代美術館と商店街とが連携した参加型のアートイベントを実施する。

計画策定プロセス

野外芸術文化ゾーンの拠点施設である現代美術館の開館を受け、これを中心市街地活性化へ活かす手法を探るため、一般公募による市民、中心商店街関係者及び美術館職員などの参加により、平成20年度にワークショップを開催し、その意見を都市再生整備計画の策定に活用した。

小山田 久 市長のコメント

当市では、十和田市現代美術館を拠点に「官庁街通り」という屋外空間を一つの美術館に見立て、アートによるまちづくりを展開する「野外芸術文化ゾーン」の整備に取り組んでまいりました。この美しい自然や街並みを背景とする「野外芸術文化ゾーン」が平成22年4月にグランドオープンして以来、多くの市民や観光客が訪れ、賑わいをみせております。

そして、いよいよ12月4日には、東北新幹線「七戸十和田駅」、「新青森駅」が開業いたします。この開業効果を最大限に享受していくためにも、今回の栄えある「創意工夫大賞」の受賞を励みに、商店街の皆様をはじめ市民や関係者の皆様と手を携え、現代アートの魅力を活かしながら中心市街地全体が感動や楽しさ、美しさを共有できるまちづくりを進めてまいります。

十和田市中心市街地活性化協議会 石川正憲 会長のコメント

新渡戸親子三代による開拓に始まり、国営三本木原開墾事業、そして軍馬補充部三本木支部の設置など、十和田市の「まちづくり」はその開拓の歴史の中で培われてきました。そして今まさに、現代アートを起爆剤として中心市街地の活性化を図ろうとする当市にとって、このような評価をいただいたことは、誠に勇気づけられるものであります。

当市のまちづくり事業には、今いくつかの商業施設整備計画が存在しますが、市街地歩行者サイン整備事業やアートファニチャー整備事業などの都市整備再生計画の対象事業においては、点在する歴史・文化・施設、中心商店街、飲食店などをつなぐ重要な事業として大いに期待するものです。

今後も、「人々が集い、暮らし、活動する中心市街地」を目指し、行政とも連携をとりながら、その責務を果たしてまいりたいと存じます。

【十和田市現代美術館】



【アート広場】



【まちなかアート活動推進事業】

アート作品を店舗内に
展示



美術館の企画展とコラボして、中心市街地で身近なものに帆布で作ったまわしとシコ名をつけるプロジェクト



【市民ワークショップ】



十和田市商店街連合会
今泉礼三 会長のコメント

日本の道百選の官庁街通りに十和田市現代美術館がオープンして、3年目を迎え、年間十万人の来館者が訪れています。その美術館からわずか 250m のところに、中心商店街があります。

これまで商店街では美術館との連携・協力による展覧会などを実施してきており、マスコミにも取り上げられ、お客さんにも好評を得ていますが、販売促進に向けた本格的な取組みはこれからだと思っています。

今回の創意工夫大賞の受賞を機に、より現代美術館と商店街が一体となった賑わい空間が実現できるよう努力してまいりたいと思います。